

小山市立博物館 博物館だより

2011
3.15

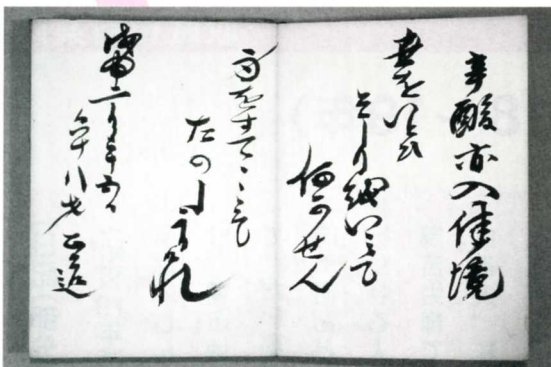
52

第10回収蔵展

故小野塚イツ子氏 遺贈品展

平成23年4月9日(土)～5月22日(日)

平成15年に逝去された小野塚イツ子氏により、所有財産が小山市へ遺贈されました。本展では、寄贈された動産類の中から小野塚家の家業(肥料商・醤油醸造業)に関する道具・小山の近現代を偲ばせる写真や資料・貴重なコレクションなどをご紹介します。



田中正造自筆揮毫「辛酸亦入佳境」(明治41)



醤油ラベル「万久」



五月女政平画「魚(仮題)」



小山尋常小学校集合写真(大正4)

記念講演会「小野塚 久平」

平成23年4月30日(土)

13:30～15:00 博物館視聴覚室

講師：大嶽 浩良氏

(前栃木県歴史文化研究会常任委員長)

申込み：電話(0285-45-5331)にて先着50名

入館料 無料

- 開館時間 9時～17時(入館は16時30分まで)
- 休館日 4/11(月) 18(月) 22(金) 25(月)、5/2(月) 6(金) 9(月) 16(月)

展示構成

- I 野州の萬屋
- II 近現代の小山
- III 小野塚コレクション

第56回企画展「桑摘み唄と小山の養蚕」を終えて

今回の企画展示では、市内で古くから行われてきた養蚕を取り上げ、繭や蚕種を生産する過程で使われた道具や、養蚕にまつわる信仰、民間伝承などを紹介しました。またかつての養蚕作業で歌われていた、生井地区に残る「生井の桑つみ唄」をオープニングセレモニーで実演していただいたり、開催期間中にビデオ上演を通じて紹介しました。

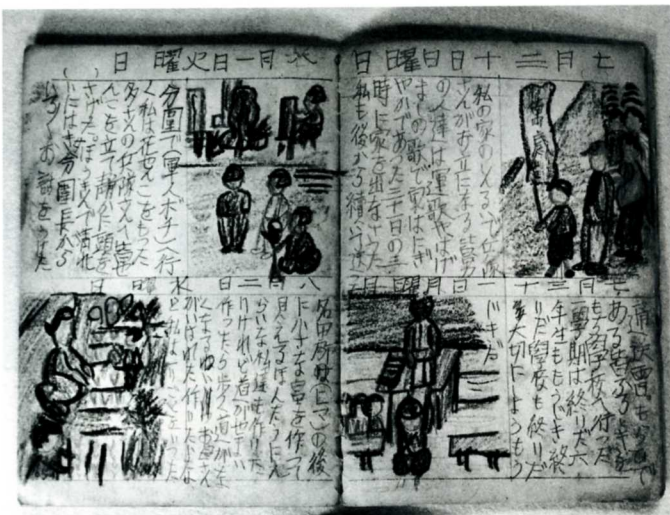


なお繭生産で生じてしまう玉繭や汚れ繭、出殻繭などといった、本来商品とはならない繭を真綿に加工して生産される結城紬が、ユネスコ無形文化遺産に登録されたことを記念して、結城紬織りに使われた道具についても併せて展示しました。

また繭の実物に触れていただくことを目的に、繭を使って「まゆ玉人形を作ろう」という工作コーナーをロビーに設けました。期間中親子連れを中心にたくさんの参加者があり、見るだけではなく実際の繭に触れることによって、かつての養蚕についての理解を深めていただきました。

収蔵資料案内

絵 日 誌 (昭和18~19年)



【日記(部分)】

(昭和19年) 8月28日

私は、しんるいの、千人針をあぶかり、朝市地へ行き多さんの人々の手で、だいぶ出き上った。
時々何んどよぼつても、知らめ顔で行かれる人、また向こうの方から、御苦労様ですなど、喜んでやつて下さる人、私は日本の人は皆いい心だなあと感心した。

これは第二次世界大戦中に書かれた小学生の絵日誌です。戦時中は質の悪い紙が出回ったため劣化の著しい資料が多いのですが、この絵日記の中身は保存状態が良く、クレヨンで描かれた絵の部分も油の染み出しがないので、きれいに残されています。

絵日記は寄贈者がお住まいであった岐阜県で書かれました。小山の様子ではないのですが、厳しい食糧事情、出征の見送り、大本營の発表など戦争末期の光景のなかにも、遠足や畑仕事、子供同士の遊びなど、小学生の生活がいきいきと描かれています。

(岩崎 照子氏 寄贈)

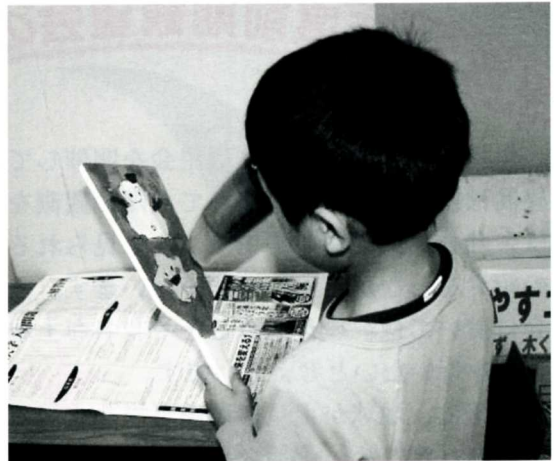
後期講座 羽子板をつくろう

正月の伝統的な遊びである羽根つきを、道具作りから体験して親しんでいただこうと、12月12日(日)に実施しました。参加者は、小学生16名、幼児2名、大人9名の計27名でした。

羽子板の形に切った桐材の周囲を紙やすりで削り、丸みをつけることから作業がスタート。そして新しい年の干支や縁起物など、それぞれに思い思いの絵を描きます。絵の具やペンで色をつける頃には、皆さん真剣そのもの。

羽子板を2枚作るため、1枚をおうちの方が、もう1枚をお子さんが描くというようにしながら取り組まれた方もいらっしゃいました。色をつけたら、最後はニスを塗って完成となります。

元々、羽根つきという遊びには、新しい年の初めに「厄を払う」という意味がありました。年末に行う定番の博物館講座として、今後も開催していきたいと考えています。



博物館学芸員実習

博物館学芸員実習は7月30日(金)から8月5日(木)まで、実日数6日間で実施しました。実習生は例年になく少ない人数でしたが、各担当教官の熱意は衰えることなく、白熱した講義が連日続きました。実習生も全てを吸収してやろうという意欲にあふれた方たちで、お互いに研鑽を高めることのできた実習となりました。



コラム 博物館職員雑記帳

もろもろベテラン学芸員新参者奮闘記 ～前編～ 学芸員 野口 静男

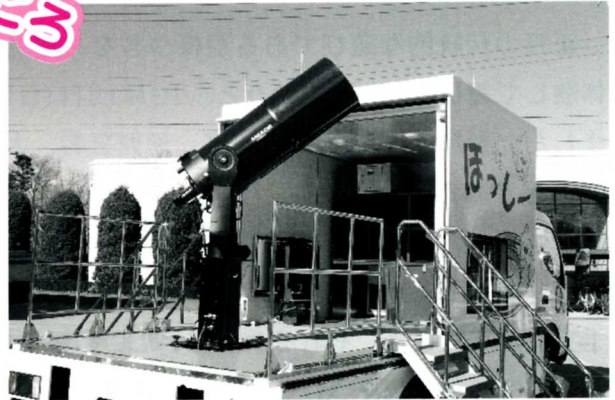
「小学生の解説は難しい。低学年ともなればなおさらだな。」これは、新参者の私が改めて実感したことです。小学生は、純白ですからね。文化財への興味を芽生えさせるのも、間違った知識を植えつけてしまうのも、こちら次第ですので。その責任は、とても重大です。同じように、自己観念(?)に凝り固まってしまった方の思考をほぐしてあげるのも、また難しい。こちらは、論破を試みている訳ではないのに、解釈の相違に気付かれた瞬間、「戦闘開始」みたいに豹変なさる方がけっこういらっしゃいます。

見学者に芽生えた、文化財への関心を上手に高める手助けをすることが、学芸員の重要な職責の一つと考えております。これからも、自己研鑽に努めていきます。

平成23年度前期観望会の見どころ

毎月第2土曜日に定例観望会を開催しています。昼間は博物館駐車場において太陽の観測を行い、夜は生井公民館において季節ごとに見られる星座などの紹介をしながら星の観測を行います。前期の観望会においては、環があることで有名な土星を中心に観測を行いたいと考えています。

去年は、地球が土星の環を真横から見るような位置にあったため、土星の環が1本の棒のように見えていました。しかし今年は、環をもった本来の土星の姿が観測できそうです。博物館の観望会への参加はもちろん、天気がよければご家庭でも夜空を眺めてみてはいかがでしょうか。



季節の一枚 「コミミズク」



豊かな自然の広がる渡良瀬遊水地には、ワシタカなどの猛禽類をはじめ、たくさんの野鳥が集まっています。また、その野生の生態をカメラに収めようとたくさんの愛好家がカメラを並べて決定的な瞬間を狙っています。

近年、人気を呼んでいる鳥が「コミミズク」です。冬鳥として大陸北部から飛来しますが、ネズミなどを狙って昼間活発に活動しているので、格好の被写体になっているのでしょうか。ヨシ原の上を低く滑空しながら・・・？、獲物を見つけたのでしょうか。コミミズクは獲物を捕らえると、その場で、すばやく飲み込みます。チョウゲンボウに横取りされないためです。

(撮影 舞坂 康一氏)

博物館友の会 会員募集中

新年度の友の会会員を募集しています。企画展の無料観覧、友の会主催研修旅行、講演会への参加などの特典の他、5つの学習部会があり、その活動成果を年2回の作品展で発表しています。

詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。

寄贈者芳名 (平成22年8月～12月)

次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- 中島 恒雄 (小山市) ……茶びつ 1点
- 倉持 芳江 (小山市) ……箱枕 1点
- ……………宮迫 1点

発行年月日／平成23年3月15日
 発行／小山市立博物館
 〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7
 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)
 電話／(0285) 45 - 5331
 ファックス／(0285) 45 - 5247
 印刷／(株)ダイサン小山